

「仕事と子育て・介護の両立に向けた多様な働き方の調査」に関する調査概要及び調査結果

1. 調査目的

働き方改革の推進と子育て・介護と仕事の両立に関する環境整備について、区内中小企業等の働き方に関する現状及び働き方に関する区民ニーズを把握し、検討の基礎資料とする。

2. 調査概要

(1) 定量調査

「事業所アンケート調査」

1) 調査対象

経済センサス（平成26年度）より従業員規模10人以上を条件として抽出した区内事業所2,000所

2) 調査方法

郵送配付、郵送回収

3) 実施期間

平成29年8月10日から24日

4) 回収結果

274件（回収率約15%）

「従業者アンケート調査」

1) 調査対象

上記「事業所アンケート調査」の調査対象事業所の従業者6,000名

2) 調査方法

事業所を通じた郵送配付、郵送回収

3) 実施期間

平成29年8月10日から24日

4) 回収結果

572件（回収率約10%）

「区民アンケート調査」

1) 調査対象

区内在住の20歳～59歳の委託事業者保有モニター（1,000名の有効回収）

2) 調査方法

インターネット調査

3) 実施期間

平成29年8月7日から14日

4) 回収結果

1,038件

(2) ヒアリング調査

「区民へのヒアリング調査」

1) ヒアリング手法、参加者等

- ・座談会(4回、参加者:子育て当事者等計18名)
- ・ワークショップ(1回、参加者:子育て支援者等60名)

2) 実施期間

平成29年7月26日から8月23日

「事業所へのヒアリング調査」

1) 調査対象

上記(1) 「事業所アンケート調査」回答事業者のうち、テレワーク制度を導入している、または試行中・導入意向がある事業者5社

2) 実施期間

平成29年9月11日から29日

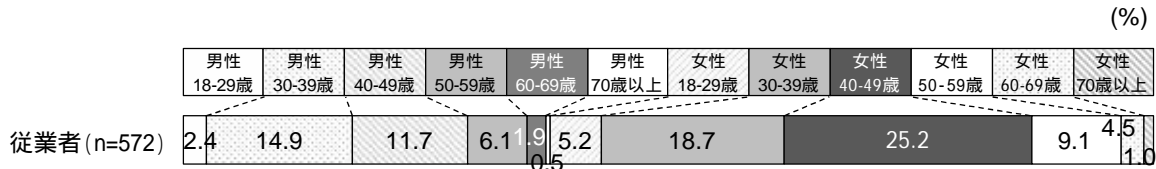
3. 調査結果（抜粋）

(1) 子育て世代の働き方について

定量調査（「従業員アンケート調査」「区民アンケート調査」）

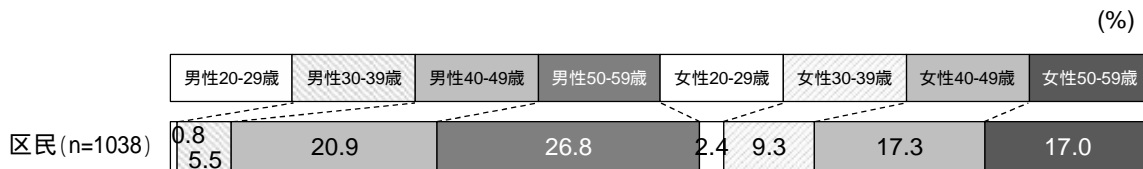
基本属性

図【従業員アンケート】年齢(単一回答)



従業員「男性 年齢不明」「女性 年齢不明」「性別 年齢不明」は非表示

図【区民アンケート】年齢(単一回答)

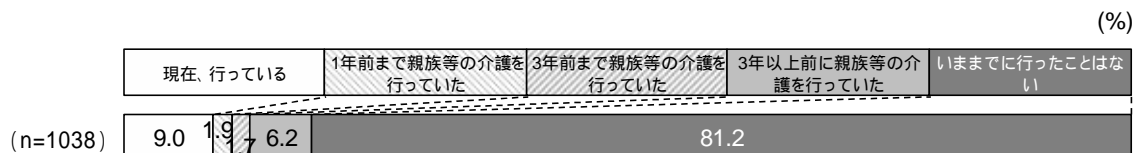


・区民アンケートの内訳

| 働いている状況 | 働いている | 働いている(産前産後休暇、育児休業、介護休業中) | 働いていない |
|---------|-------|--------------------------|--------|
| 1038 | 814 | 21 | 203 |
| 100 | 78.4 | 2.0 | 19.6 |

| 対象者 | 小学校低学年までの子あり | 小学校高学年以上の子あり | 子なし |
|----------|--------------|--------------|------|
| 度数: 1038 | 250 | 541 | 311 |
| %=100 | 24.1 | 52.1 | 30.0 |

【区民アンケート】親や親族の介護状況(単一回答)



小学校低学年までの働き方

・働く場所（複数回答）

区民の現在の働き方としては、約8割の方が現状では「事業所」で働いているが、理想とする働く場所としては、「事業所」が約6割に減少し、「自宅近くのサテライトオフィス等」が18.2%、「在宅勤務」が34.3%となっている。

従業者の現在の働き方としては、働く場所は「事業所」が87.0%と最も多いが、理想とする働く場所としては、「事業所」が51.5%に減少し、次いで「自宅近くのサテライトオフィス等」が24.8%、「在宅勤務」が21.5%となっている。

図【区民アンケート】勤務場所(複数回答)

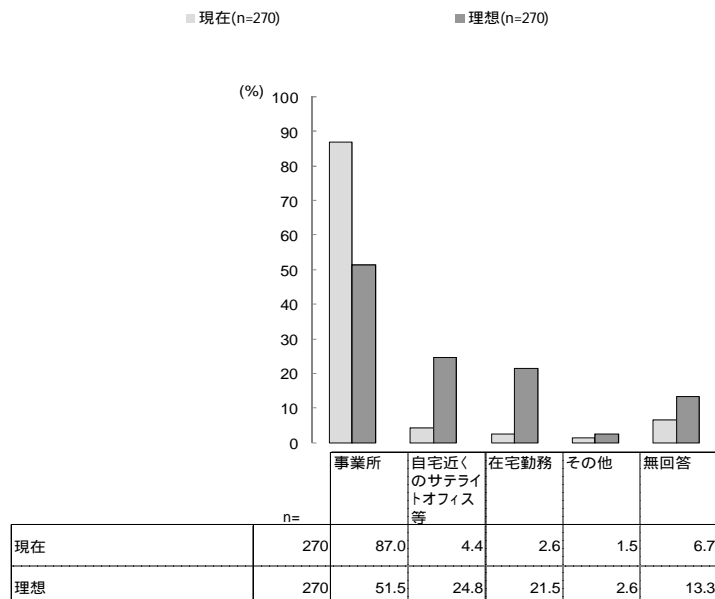
あなたと同居している一番下のお子さんの年齢が、0歳のとき、1～2歳のとき、3歳～就学前のとき、小学校低学年のときのそれぞれについて、実際の働き方をお答えください。

| 上段:度数 下段:% | n= | 事業所(会社) | 家の近くのサテ ライトオフィス等 | 在宅勤務 | 産前産後休暇・ 育児休業中 | その他 |
|-----------------------|------------|-------------|---------------------|------------|------------------|----------|
| 子どもが0歳のときの 働き方 | 108 100 | 84 77.8 | 3 2.8 | 6 5.6 | 18 16.7 | 4 3.7 |
| 子どもが1～2歳のとき の働き方 | 110 100 | 87 79.1 | 6 5.5 | 7 6.4 | 10 9.1 | 6 5.5 |
| 子どもが3歳～就学前 のときの働き方 | 81 100 | 69 85.2 | 4 4.9 | 8 9.9 | 1 1.2 | 4 4.9 |
| 子どもが小学校低学 年のときの働き方 | 53 100 | 42 79.2 | 4 7.5 | 7 13.2 | 2 3.8 | 3 5.7 |
| 現在、理想とする働き 方 | 198 100 | 123 62.1 | 36 18.2 | 68 34.3 | 18 9.1 | 5 2.5 |

小学校低学年までの子どもと同居している方におたずねします。

【問21】 あなたの現在の働き方と、あなたが理想とする働き方をお答えください。

図【従業者アンケート】働く場所(複数回答)



・労働時間

区民の現在の1か月の労働時間については「160時間以上」が最も多いが、理想とする働き方では、「120から160時間未満」が24.7%で最も多い。

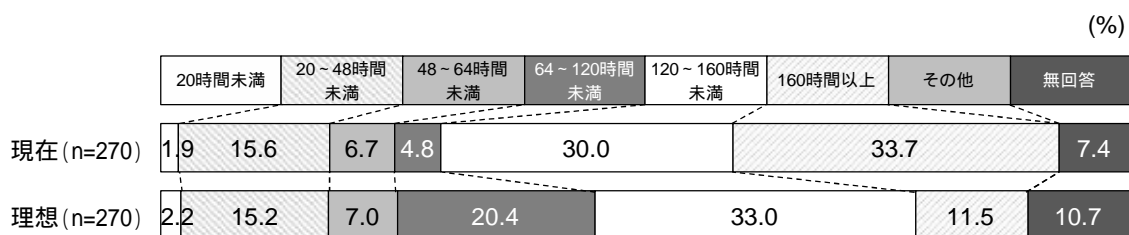
従業員の1か月の現在の労働時間については、「160時間以上」が33.7%と最も多く、次いで「120～160時間未満」が30.0%となっているのに対し、理想は「120～160時間未満」が33.0%と最も多く、次いで「64時間～120時間未満」が20.4%となっている。

図【区民アンケート】1か月の労働時間(単一回答)

1か月の労働時間をお答えください。(回答は1つ)

| 上段:度数 下段:% | n= | 20時間未満 | 20～48時間未満 | 48～64時間未満 | 64～120時間未満 | 120～160時間未満 | 160時間以上 |
|-------------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------------|
| 子どもが0歳のときの働き方 | 108 100 | 4 3.7 | 11 10.2 | 12 11.1 | 9 8.3 | 13 12.0 | 47 43.5 |
| 子どもが1～2歳のときの働き方 | 110 100 | 8 7.3 | 13 11.8 | 14 12.7 | 8 7.3 | 14 12.7 | 48 43.6 |
| 子どもが3歳～就学前のときの働き方 | 81 100 | 8 9.9 | 6 7.4 | 12 14.8 | 7 8.6 | 15 18.5 | 31 38.3 |
| 子どもが小学校低学年のときの働き方 | 53 100 | 5 9.4 | 11 20.8 | 5 9.4 | 2 3.8 | 8 15.1 | 22 41.5 |
| 現在、理想とする働き方 | 198 100 | 24 12.1 | 32 16.2 | 23 11.6 | 18 9.1 | 49 24.7 | 39 19.7 |

図【従業員アンケート】1か月の労働時間(単一回答)



・子どもの預け場所等（複数回答）

さらに、働いている間の子どもの預け場所等について尋ねたところ、区民・従業者の理想は、いずれも「保育園／学童保育に預ける」が（47.5%、47.4%）と最も多く、次に「配偶者・パートナーが見る」が（40.9%、15.9%）であった。

また、区民調査を性別で分類したところ、女性は「保育園／学童保育等に預ける」が53.7%と最も多く、次いで「在宅で自分で子どもを見ながら働く」であり、男性は「配偶者・パートナーが見る」が52.7%で、最も多く、次いで「保育園／学童保育等に預ける」が44.3%となっている。

図【区民アンケート】子どもとの距離感（複数回答）

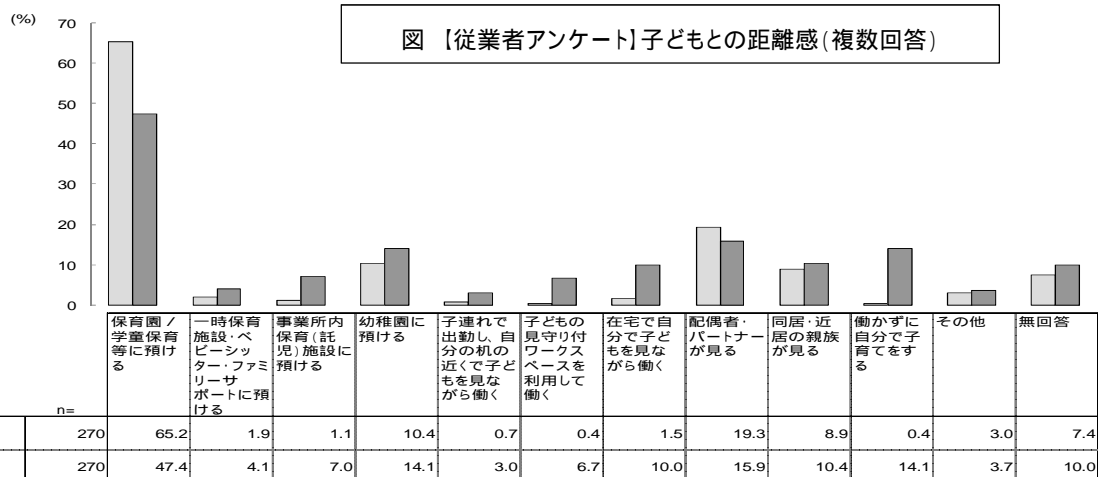
| 上段：度数 下段：% | n= | 保育園／学童保育に預ける | 一時保育施設・ベビーシッター・ファミリーサポートに預ける | 事業所内保育託児施設に預ける | 幼稚園に預ける | 子の机の近くで子どもを見ながら働く | 子連れで出勤し、自分の机の近くで子どもを見ながら働く | 子どもの見守り付ワークスペースを利用して働く | 在宅で自分で子どもを見ながら働く | 配偶者・パートナーが見る | 同居・近居の親族が見る | 産前産後休暇・育児休業を取得して自分で子育てをする | 働かずに自分で子育てをする | その他 |
|-------------------|------------|---------------|------------------------------|----------------|------------|-------------------|----------------------------|------------------------|------------------|--------------|-------------|---------------------------|---------------|----------|
| | | 子どもが0歳のときの働き方 | 108 100 | 41 38.0 | 4 3.7 | 4 3.7 | 0 0.0 | 4 3.7 | 3 2.8 | 7 6.5 | 56 51.9 | 7 6.5 | 16 14.8 | 0 0.0 |
| 子どもが1～2歳のときの働き方 | 110 100 | 61 55.5 | 3 2.7 | 4 3.6 | 0 0.0 | 1 0.9 | 0 0.0 | 5 4.5 | 48 43.6 | 11 10.0 | 3 2.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | |
| 子どもが3歳～就学前のときの働き方 | 81 100 | 39 48.1 | 1 1.2 | 0 0.0 | 21 25.9 | 1 1.2 | 0 0.0 | 2 2.5 | 33 40.7 | 8 9.9 | 4 4.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | |
| 子どもが小学校低学年のときの働き方 | 53 100 | 30 56.6 | 2 3.8 | 2 3.8 | 2 3.8 | 1 1.9 | 0 0.0 | 5 9.4 | 21 39.6 | 10 18.9 | 1 1.9 | 0 0.0 | 4 7.5 | |
| 現在、理想とする働き方 | 198 100 | 94 47.5 | 7 3.5 | 16 8.1 | 17 8.6 | 12 6.1 | 12 6.1 | 34 17.2 | 81 40.9 | 25 12.6 | 10 5.1 | 16 8.1 | 2 1.0 | |

（現在、理想とする働き方：性別）

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|------------|------------|----------|-----------|-----------|-----------|----------|------------|------------|------------|-----------|------------|----------|
| 女性 | 67 100 | 36 53.7 | 5 7.5 | 5 7.5 | 6 9.0 | 7 10.4 | 5 7.5 | 18 26.9 | 12 17.9 | 9 13.4 | 7 10.4 | 15 22.4 | 2 3.0 |
| 男性 | 131 100 | 58 44.3 | 2 1.5 | 11 8.4 | 11 8.4 | 5 3.8 | 7 5.3 | 16 12.2 | 69 52.7 | 16 12.2 | 3 2.3 | 1 0.8 | 0 0.0 |

■ 現在(n=270)

■ 理想(n=270)



テレワークについて

区民にテレワークの認知度について尋ねたところ、「知っている」と回答したのは34.4%だった。また、従業員の認知度については、「知っている」と回答したのは26.0%だった。

図【従業員アンケート】[区民アンケート]テレワークの認知度(単一回答)

| | 知っている | 聞いたことはあるが、内容はよく知らない | 知らない | 無回答 |
|------------|-------|---------------------|------|-----|
| 従業員(n=572) | 26.0 | 32.0 | 40.4 | 1.6 |
| 区民(n=1038) | 34.4 | 37.0 | 28.6 | |

また、現在働いている区民にテレワーク制度の利用状況を聞いたところ、「利用している」は6.3%であったが、「利用していないが、利用したい」は30.1%であった。このうち小学校低学年までの子を持つ方は「利用している」、「利用していないが、利用したい」が平均を上回った。

従業員にも聞いたところ、「利用している」は2.3%であったが、「利用していないが、利用したい」は24.0%であった。

図【区民アンケート】テレワーク制度利用状況(単一回答)

| 上段:度数 下段:% | n= | 利用している | 利用していないが、利用したい | 利用したくない | その他 | わからない |
|---------------|-----|--------|----------------|---------|-----|-------|
| TOTAL | 835 | 53 | 251 | 218 | 16 | 297 |
| | 100 | 6.3 | 30.1 | 26.1 | 1.9 | 35.6 |
| 小学校低学年までの子あり | 192 | 16 | 74 | 43 | 3 | 56 |
| | 100 | 8.3 | 38.5 | 22.4 | 1.6 | 29.2 |
| 小学校高学年以上の子あり | 424 | 30 | 111 | 117 | 9 | 157 |
| | 100 | 7.1 | 26.2 | 27.6 | 2.1 | 37.0 |
| 子なし | 271 | 13 | 82 | 70 | 5 | 101 |
| | 100 | 4.8 | 30.3 | 25.8 | 1.8 | 37.3 |

図【従業員アンケート】テレワーク制度利用状況(単一回答)

| | 利用している | 利用していないが、利用したい | 利用したくない | わからない | 無回答 |
|---------|--------|----------------|---------|-------|-----|
| (n=572) | 2.3 | 24.0 | 34.6 | 35.1 | 4.0 |

多様な働き方

そこで、子育てとテレワークの手法について区民に尋ねたところ、「子連れで出勤し、自分の机の近くで子どもを見ながら働く」については、6割以上の方が「よくないと思う・あまりよくないと思う」と回答したが、「子どもの見守り付のワークスペース等を利用して働く」ことについては、7割以上の方が「よいと思う、まあよいと思う」と回答し、「在宅で自分で子どもを見ながら働く」ことについても7割以上の方が「よいと思う、まあよいと思う」と回答した。

従業者に尋ねたところ、「子連れで出勤し、自分の机の近くで子どもを見ながら働く」は6割以上の方が「よくないと思う・あまりよくないと思う」と回答したが、「子どもの見守り付のワークスペース等を利用して働く」は69.7%、「在宅で自分で子どもを見ながら働く」は、54.0%の方が、「よいと思う、まあよいと思う」と回答した。

図【区民アンケート】子どもを伴った働き方について(単一回答)

あなたは、子連れで出勤し、自分の机の近くで子どもを見ながら働く働き方についてどう思いますか。なお、子どもの見守りが必要でない方については、一般論でお答えください。(回答は1つ)

| 上段:度数 下段:% | n= | よいと思う | まあよいと思う | あまりよくないと思う | よくないと思う |
|-----------------------|------|-------|---------|------------|---------|
| TOTAL | 1038 | 91 | 301 | 417 | 229 |
| | 100 | 8.8 | 29.0 | 40.2 | 22.1 |
| 働いている | 814 | 65 | 239 | 332 | 178 |
| | 100 | 8.0 | 29.4 | 40.8 | 21.9 |
| 産前産後休暇、育児休業、 介護休業中 | 21 | 4 | 2 | 7 | 8 |
| | 100 | 19.0 | 9.5 | 33.3 | 38.1 |
| 働いていない | 203 | 22 | 60 | 78 | 43 |
| | 100 | 10.8 | 29.6 | 38.4 | 21.2 |

図【区民アンケート】子どもを伴った働き方について(単一回答)

あなたは、子どもの見守り付のワークスペース等を利用して働く働き方についてどう思いますか。なお、子どもの見守りが必要でない方については、一般論でお答えください。(回答は1つ)

| 上段:度数 下段:% | n= | よいと思う | まあよいと思う | あまりよくないと思う | よくないと思う |
|-----------------------|------|-------|---------|------------|---------|
| TOTAL | 1038 | 187 | 564 | 196 | 91 |
| | 100 | 18.0 | 54.3 | 18.9 | 8.8 |
| 働いている | 814 | 141 | 436 | 163 | 74 |
| | 100 | 17.3 | 53.6 | 20.0 | 9.1 |
| 産前産後休暇、育児休業、 介護休業中 | 21 | 4 | 10 | 5 | 2 |
| | 100 | 19.0 | 47.6 | 23.8 | 9.5 |
| 働いていない | 203 | 42 | 118 | 28 | 15 |
| | 100 | 20.7 | 58.1 | 13.8 | 7.4 |

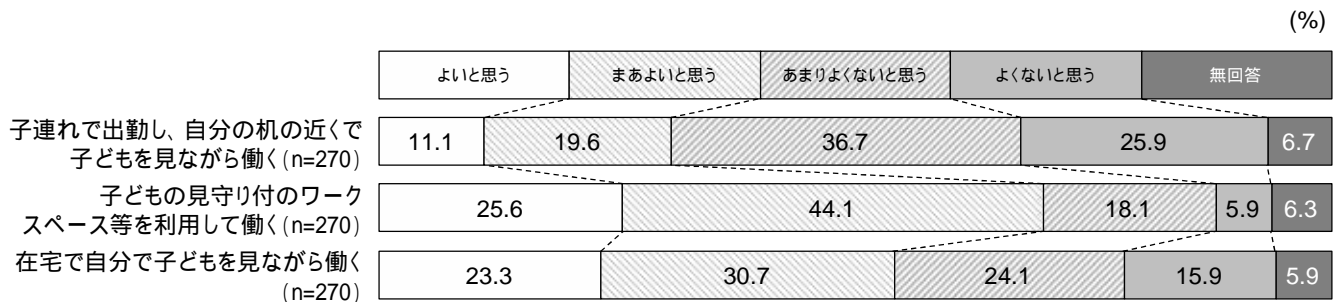
図【区民アンケート】子どもを伴った働き方について(単一回答)

あなたは、在宅で自分で子どもを見ながら働く働き方についてどう思いますか。なお、子どもの見守りが必要でない方については、一般論でお答えください。(回答は1つ)

| 上段:度数 下段:% | n= | よいと思う | まあよいと思う | あまりよくないと思う | よくないと思う |
|-----------------------|------|-------|---------|------------|---------|
| TOTAL | 1038 | 223 | 580 | 176 | 59 |
| | 100 | 21.5 | 55.9 | 17.0 | 5.7 |
| 働いている | 814 | 168 | 457 | 140 | 49 |
| | 100 | 20.6 | 56.1 | 17.2 | 6.0 |
| 産前産後休暇、育児休業、 介護休業中 | 21 | 5 | 6 | 5 | 5 |
| | 100 | 23.8 | 28.6 | 23.8 | 23.8 |
| 働いていない | 203 | 50 | 117 | 31 | 5 |
| | 100 | 24.6 | 57.6 | 15.3 | 2.5 |

【問 22】 あなたは、以下のような働き方についてどう思いますか。(それぞれ は1つだけ)

図【従業者アンケート】子どもを伴った働き方について(単一回答) 子育てをしている方に質問。



子どもの見守り付のワークスペース

さらに、区民に一定の利用料を支払って子どもの見守り付のワークスペースを利用して働きたいか尋ねたところ、「わからない・答えたくない」を除く方のうち、56%以上の方が「是非働きたい、まあ働きたい」と回答した。また、小学校低学年までの子のある方に絞った場合、「わからない・答えたくない」を除く方のうち、60%以上の方が「是非働きたい、まあ働きたい」と回答した。子を持たない方からも一定の評価を得た。

従業員については、「わからない・答えたくない・無回答」を除く方のうち、62.3%の方が「是非働きたい、まあ働きたい」と回答した。

図【区民アンケート】子どもの見守り付のワークスペースの利用意向(単一回答)

あなたは、テレワーク制度を利用できる状況の場合、一定の利用料を支払って子どもの見守り付のワークスペースを利用して働きたいと思いますか。なお、子どもの見守りが必要でない方については、一般論でお答えください。(回答は1つ)

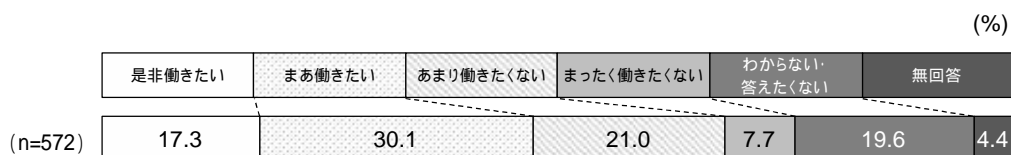
| 上段:度数 下段:% | n= | 是非働きたい | まあ働きたい | あまり働きたくない | まったく働きたくない | わからない・答えたくない |
|------------------|------|--------|--------|-----------|------------|--------------|
| TOTAL | 1038 | 99 | 338 | 217 | 117 | 267 |
| | 100 | 9.5 | 32.6 | 20.9 | 11.3 | 25.7 |
| 働いている | 814 | 68 | 258 | 173 | 91 | 224 |
| | 100 | 8.4 | 31.7 | 21.3 | 11.2 | 27.5 |
| 産前産後休、 育休、介護休 | 21 | 4 | 7 | 3 | 4 | 3 |
| | 100 | 19.0 | 33.3 | 14.3 | 19.0 | 14.3 |
| 働いていない | 203 | 27 | 73 | 41 | 22 | 40 |
| | 100 | 13.3 | 36.0 | 20.2 | 10.8 | 19.7 |

(対象者別)

| | | | | | | |
|------------------|-----|------|------|------|------|------|
| 小学校低学年 までの子あり | 250 | 35 | 92 | 54 | 28 | 41 |
| | 100 | 14.0 | 36.8 | 21.6 | 11.2 | 16.4 |
| 小学校高学年 以上の子あり | 541 | 45 | 179 | 121 | 59 | 137 |
| | 100 | 8.3 | 33.1 | 22.4 | 10.9 | 25.3 |
| 子なし | 311 | 27 | 89 | 60 | 37 | 98 |
| | 100 | 8.7 | 28.6 | 19.3 | 11.9 | 31.5 |

【問17】あなたは、テレワーク制度を利用できる状況の場合、一定の利用料を支払って、子どもの見守り付のワークスペースを利用して働きたいと思いますか。なお、子どもの見守りが必要でない方については、一般論でお答えください。(は1つだけ)

図【従業者アンケート】子どもの見守り付のワークスペースの利用意向(単一回答)



「理想とする働き方」を実現するもの（複数回答）

理想とする働き方を実現することについて質問をしたところ、区民で最も多かったのは、定時で帰りやすい職場環境（雰囲気）があるが50.1%、次に保育所／学童保育等に預けられるが41.0%、次に業務量を調整し、自分の残業を調整できるが33.3%であった。

子育て中の従業者については、「保育園／学童保育等に預けられる」が74.8%、次いで「定時で帰りやすい職場環境（雰囲気）がある」が71.1%、「業務量を調整し、自分の残業を調整できる」が57.0%となっている。

区民のうち、産前産後休・育休・介護休の方では、「業務量を調整し、自分の残業を調整できる」、「産後休暇や育児休暇を早く切り上げて職場復帰（再就職等含む）しなくても、保育所／学童保育等に入所できる」、「保育所／学童保育等に通園させるための利用料が高くない」が3位（9人、42.9%）に、「子どもの見守り付のワークスペース等を利用できる」、「生活圏に利用できるサテライトオフィス（子どもの見守り付のワークスペース等を含む）がある」が続いている。（8人、38.1%）

また、働いていない方では、「非正社員の労働者を正社員に転換する制度があり、適用される」が3位（39.9%）に、「現在望む働き方（条件）にあった求人がある」が4位（38.9%）に、「子どもの見守り付のワークスペース等を利用できる」が5位（38.4%）に、「サテライトオフィス（子どもの見守り付のワークスペース等を含む）を利用する制度がある」が6位（36.9%）となった。

さらに、働いていない方に理想とする働き方を実現できることがあった場合の就労意向を尋ねたところ、7割以上（是非働きたい21.3%、まあ働きたい50.6%）が働きたいと回答した。

図【区民アンケート】理想とする働き方を実現するための環境や条件等(複数回答)

(働いている人)あなたにとって、働くためには、どのようなことがあるとよいと思いますか。(回答はいくつでも)
 (働いていない人)あなたにとって、理想とする働き方を実現するためには、どのようなことがあるとよいと思いますか。(回答はいくつでも)

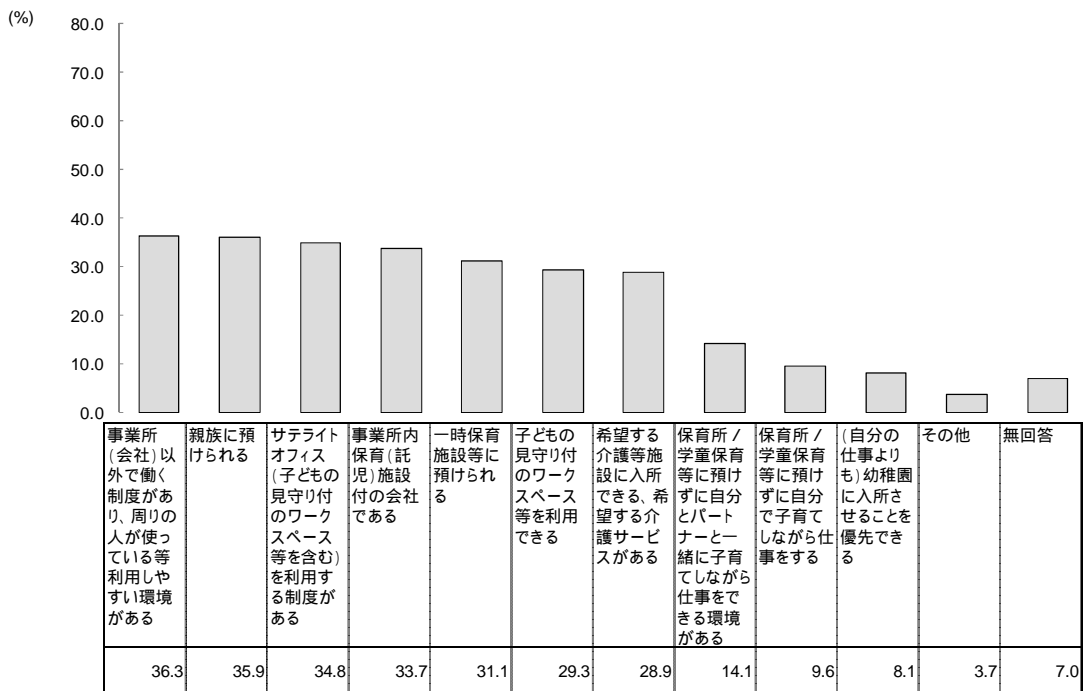
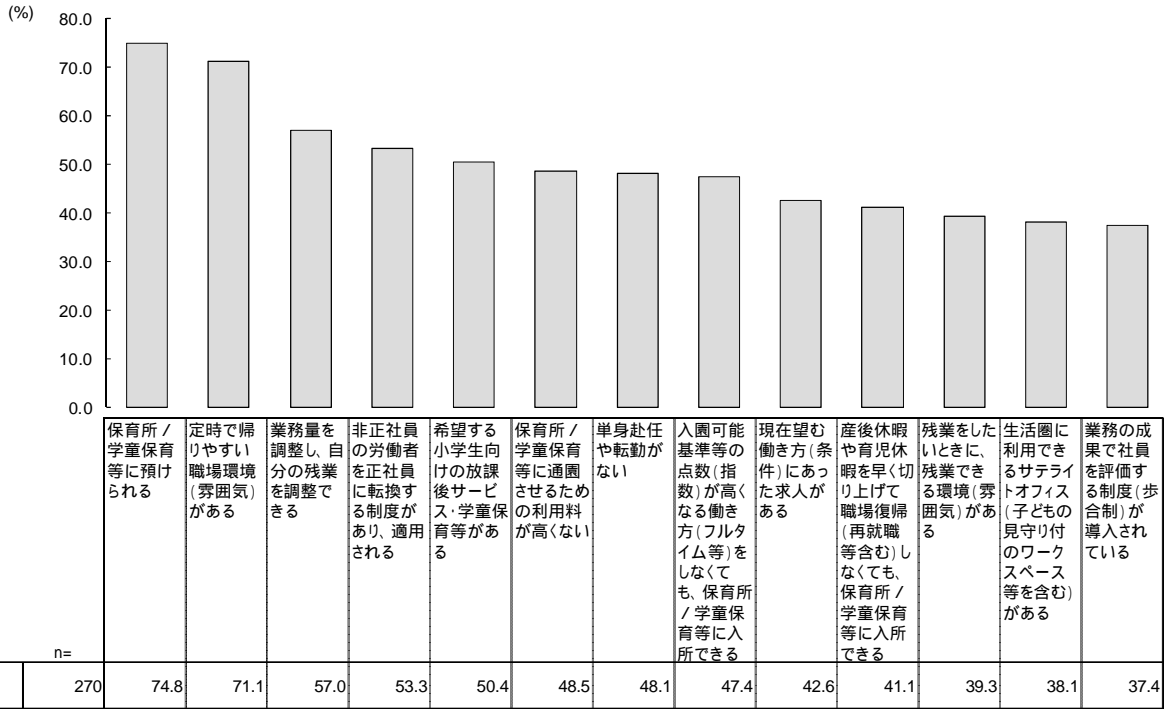
| 上段:度数 下段:% | n= | サテライトオフィス子どもの見守り付のワークスペース等を含む) | 生活圏に利用できるサテライトオフィス子どもの見守り付のワークスペース等を含む) | 周囲の人が使っている等利用しやすい環境がある | 事業所(会社)以外で働く制度があり、周りの人が使っている等利用しやすい環境がある | 非正社員の労働者を正社員に転換する制度があり、適用される | 業務量を調整し、自分の残業を調整できる | 定時で帰りやすい職場環境(雰囲気)がある | 残業をしたときに、残業できる環境(雰囲気)がある | 業務の成果で社員を評価する制度(歩合制)が導入されている | 保育所/学童保育等に預けられる | 一時保育施設等に預けられる | 子どもの見守り付のワークスペース等を利用できる | 子どもを親族に預けられる |
|------------------|------------|--------------------------------|---|------------------------|--|------------------------------|---------------------|----------------------|--------------------------|------------------------------|-----------------|---------------|-------------------------|--------------|
| | | TOTAL | 1038 100 | 294 28.3 | 304 29.3 | 308 29.7 | 341 32.9 | 346 33.3 | 520 50.1 | 284 27.4 | 180 17.3 | 426 41.0 | 218 21.0 | 262 25.2 |
| 働いている | 814 100 | 213 26.2 | 223 27.4 | 255 31.3 | 253 31.1 | 274 33.7 | 376 46.2 | 224 27.5 | 142 17.4 | 308 37.8 | 161 19.8 | 176 21.6 | 155 19.0 | |
| 産前産後休、 育休、介護休 | 21 100 | 6 28.6 | 8 38.1 | 2 9.5 | 7 33.3 | 9 42.9 | 13 61.9 | 5 23.8 | 4 19.0 | 14 66.7 | 3 14.3 | 8 38.1 | 4 19.0 | |
| 働いていない | 203 100 | 75 36.9 | 73 36.0 | 51 25.1 | 81 39.9 | 63 31.0 | 131 64.5 | 55 27.1 | 34 16.7 | 104 51.2 | 54 26.6 | 78 38.4 | 55 27.1 | |

| 上段:度数 下段:% | n= | 保育所/学童保育等に預けず、希望する介護サービスがある | 希望する介護等施設に入所できる、希望する介護サービスがある | 希望する小学生向けの放課後サービス・学童保育等がある | 保育所/学童保育等に通園させるための利用料が高くない | 産後休暇や育児休暇を早く切り上げて職場復帰(再就職等含む)しなくても、保育所/学童保育等に入所できる | 入園可能基準等の点数(指数)が高くなる働き方(フルタイム等)をしなくても、保育所/学童保育等に入所できる | (自分の仕事よりも)幼稚園に入所させることを優先できる | 事業所内保育(託児)施設付きの会社である | 保育所/学童保育等に預けず、自分とパートナーと一緒に子育てしながら仕事をできる環境がある | 保育所/学童保育等に預けず、自分で子育てしながら仕事をする | 単身赴任や転勤がない | 現在望む働き方(条件)にあった求人がある | その他 | 特になし |
|------------------|------------|-----------------------------|-------------------------------|----------------------------|----------------------------|--|--|-----------------------------|----------------------|--|-------------------------------|-------------|----------------------|-------------|----------|
| | | TOTAL | 1038 100 | 95 9.2 | 106 10.2 | 221 21.3 | 65 6.3 | 149 14.4 | 148 14.3 | 200 19.3 | 187 18.0 | 153 14.7 | 286 27.6 | 241 23.2 | 7 0.7 |
| 働いている | 814 100 | 72 8.8 | 76 9.3 | 143 17.6 | 42 5.2 | 96 11.8 | 91 11.2 | 131 16.1 | 118 14.5 | 105 12.9 | 207 25.4 | 155 19.0 | 3 0.4 | 153 18.8 | |
| 産前産後休、 育休、介護休 | 21 100 | 3 14.3 | 1 4.8 | 5 23.8 | 0 0.0 | 7 33.3 | 9 42.9 | 9 42.9 | 4 19.0 | 1 4.8 | 5 23.8 | 7 33.3 | 2 9.5 | 1 4.8 | |
| 働いていない | 203 100 | 20 9.9 | 29 14.3 | 73 36.0 | 23 11.3 | 46 22.7 | 48 23.6 | 60 29.6 | 65 32.0 | 47 23.2 | 74 36.5 | 79 38.9 | 2 1.0 | 25 12.3 | |

(働いていない人)先ほどお答えいただいたようなことがあれば、働きたいと思いますか。(回答は1つ)

| 上段:度数 | | 是非働きたい | まあ働きたい | あまり働きたくない | まったく働きたくない | その他 具体的に: |
|-------|-----|--------|--------|-----------|------------|-----------|
| 下段:% | n= | | | | | |
| TOTAL | 178 | 38 | 90 | 34 | 14 | 2 |
| | 100 | 21.3 | 50.6 | 19.1 | 7.9 | 1.1 |

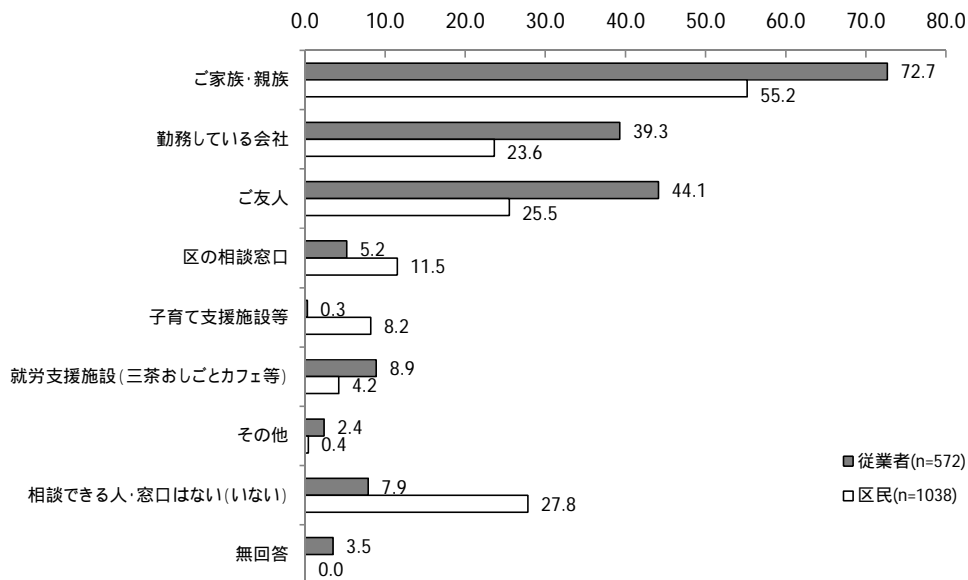
図【従業者アンケート】理想とする働き方を実現するための環境や条件等(複数回答)



仕事と子育て・介護等に関する相談先

仕事と子育て・介護等に関する相談先については、「ご家族・親族」が最も多く（区民 55.2%、従業者 72.7%）、次いで従業者は「ご友人」が 44.1%、区民は「相談できる人・窓口はない（いない）」が 27.8%となっている。

図 【従業者アンケート】【区民アンケート】仕事と子育て・介護に関する相談先（複数回答）



区民へのヒアリング調査結果

働くことと子どもとの関わりについて

【座談会での意見】

1)「現実」

- ・現在育休中で、産前の営業職の拘束時間は長く、いままで通りの9時～21時の長時間勤務は難しいので、どのように復職すべきか考えている。フリーになることも考えたが、保育園事情を考えるとそれも現実的ではないと考えている。
- ・産前の勤務は長い時間拘束される仕事で、子どもがいて続けることは無理だったので離職した。
- ・フルタイムでないと保育園に入れないとあおられて、本当だったら短い時間の働きを望んでいるのに泣く泣くフルタイムで仕事をしている人が大勢いる。
- ・2人目、3人目が生まれた際、もっと子どもと一緒にいたかったのに、認可保育園の兄弟加点がつくうちに無理やり保育園に預けた。外遊びもさせたかったが、泣く泣く0歳の時に保育園に入れた。
- ・在宅でみるのは2歳が限界。幼稚園に行ってから2時までにはできる仕事に限定した。

2)「理想」

- ・子どもが幼稚園入るまで家で見たい。本音は働くのも、週1～2日くらいで働きたいが、それでは保育園に入れない。
- ・0か100の働き方しかない。半日は仕事、半日は育児に当てられたい。
- ・育休中にもっと子どもといたいと思ったが、経済的理由で復帰する。本当は子どもを育てながらできる仕事をあてがってほしい。
- ・育児は3歳児くらいまでが一番大変。その間の仕事の仕方が緩やかにできれば、ソフトランディングできて、仕事を辞めずに済むのでは。

3)「子どもとの関わり」

- ・ずっと子どもと一緒にしんどい。離れる時間があるのは母にとっても子どもにとってもよいのではないかと。子どもといない時間を自分で作らなければと思った。
- ・気晴らしに仕事したいという人もいるほど。子どもと24時間いると、復帰に対しての不安感が募ったりもする。
- ・自分の子どもは自分でみたい。自分が疲れて余裕がなくなると、食事や子育ての質がおちて、何のためにやっているのかと思うように。

4)「自己実現」

- ・会社を辞めてみて、社会貢献できていない自分もったいなく、何かしたい気持ちがあるのにできていないので、行き詰まり感、閉塞感を感じる。自己実現して自分が輝くことで子どもにもいい影響があるのではと思う。
- ・出産を期に仕事をやめてから、稼いでないことに負い目を感じるようになった。
- ・女性自身が家事・育児の価値を下げている。育児はものすごく価値の高いことをしているのに、対価がないというだけで、自分で価値を下げている。自分自身でその価値を見つけていくと同時に男性の理解や価値観の醸成は大事。

【ワークショップでの意見（グループ発表）】

- ・様々な制度ができてきているが、文化、風土、価値観が何も変わっていない。
- ・女性の中でも自分では気づいていない子育てに対するしほりが残っていると思う。
- ・違う選択をしたいと思う男性がいても、職場の関係で選択できない。制度はできても空気が熟成できていないのでは。
- ・子どもを持つ時が、男性も女性も働き方や子育てを含め、この後の人生をどう生きていきたいか考えるタイミングだと思う。
- ・世田谷区は保育園、幼稚園の選択がわりとできるが、家、職場、預け先の移動の三角形は大きい状況で、ある時に働くか、働かないかの選択をせまられる焦りがある。ゆるやかに決められるような多様な支援が必要だと思う。
- ・家事・育児を家庭内で完結させるのは難しいが、これまでのような血縁、地縁にも頼れない状況の中、女性も働くのが当たり前、子育ては手伝うものという男性の感覚など、構造的な難しさが女性だけにいつているのではないか。社会全体、地域全体で子育てをしていくことが重要だと思う。
- ・女性の悩みがずっと変わっていないのは男性が変わらないから。変わりたいと望んで変われないのであれば、社会に問題があり、社会が変わらないといけない。
- ・平等といいながら男女平等になってない。男性、女性問わず、個人の希望や思いに対して、働き方の自由度が低い。
- ・家族以外でサポーターしたい人の発掘が必要。
- ・様々な支援があるのに、それが使えないのはなぜか、考える必要がある。
- ・制度にあわせた生き方を選ばざるを得ないのが現状。
- ・働こうと思ったときにハローワークでは「預ける先が決まっているか？」と聞かれ、保育所では「働くところが決まっているか？」と聞かれる矛盾。働かないと預けられないし、預けられないと働けない状況はおかしい。

子どもの見守り付きワークスペース事業について

【座談会での意見】

1)「会社にとって」

- ・在宅勤務は、育児中に限らず流行っているし、一定のニーズはあり、本当に仕事ができる環境があれば、会社としてもメリットがある。
- ・私が勤めている会社でも在宅勤務を導入しているが、仕事内容は限られており、会社は無理やり在宅でできる仕事を作っているような状況。
- ・在宅勤務に否定的な会社も多い。守秘義務や在勤管理で難点がある。同じような業種でも導入している会社もあるし、経営層の考え方一つで左右される。
- ・導入しようとする企業が課題だと思っているような生産性が落ちることはなく、実際にはむしろ上がると聞いている。短時間勤務よりも労働時間は増えるので、本来は効率的と考えるべき。

2)「当事者にとってのプラス面」

- ・働き方は多様化しており、フリーランスも増えているので、こういった場は増えていったほうがよい。
- ・働く側からはニーズはあると思う。自分が在宅でやっていたときは、誰かがいないと電話もできず仕事が成り立たないので、コワーキングスペースはそういった意味では理想だし、近所だったら役立つ。
- ・子どもに何かあればすぐにかかけつけられるので、あったらいいなと思った。
- ・大手は自力で始められるが、中小は難しいため、コワーキングスペースを福利厚生で持ってくれるならありがたい。

3)「当事者にとってのマイナス面」

- ・利用できる職種が限られる。
- ・自分の会社も導入されたが、職種にもよるし上司との信頼関係ありきだった。この人なら在宅でも仕事してくれるという信頼関係があれば利用できる雰囲気だった。
- ・子どもを気にしながら、仕事をしたい人はいないのでは。子どもと一緒にいたいと言うが、仕事をしながらではない。
- ・自分が独身の立場だったら、子どもがいる環境だと仕事しづらいと思うかも。不妊の方などは快くない可能性もある。

4)「こうであれば使いやすい」

- ・オシャレでなくてよいので、仕事や勉強ができて、子どもも居心地がよい環境があるならば使いたい。
- ・ガラス張りはダメ。親の姿が見えたら、子どもも気持ちの切り替えができない。泣き声も聞こえないほうがいい。フロアが別でもいいかも。
- ・子育てステーションやひろば併設だとよい。ファミリー・サポート・センター事業が併用できるのもよい。
- ・3歳から認可保育園への入所が保障されるのであればいい。
- ・保護者が近くにいるのが前提だが、完全に預けて外出ができないのは使いづらい。

5)「利用できる職種」

- ・カメラマン、ライターのPC操作など
- ・対人でない仕事が前提
- ・コールセンターなど電話対応やプログラミングのSEなど
- ・仕事だけでない利用（勉強、自己研鑽）の仕方ができるといい。

6)「利用できない職種」

- ・お客様に出向く営業
- ・医療系の仕事（現場に行く必要がある）、対人サービス業
- ・ライターでも外に出向く時（取材、打ち合わせ）は利用できない。

7)「子どもにとって」

- ・子どもにとっての環境はどうか。狭いところに閉じ込めておくのは子どもにとって良くない。子どもにとって価値ある場・時間でないと、お金を払ってまで預けない。家で放置するのと同じ。
- ・2歳半以上になると室内での見守りに限度がある。子どもが飽きてしまって持たない。こういった場が使えるのは、子どもが小さく、短い保育時間の方に限られるのでは。
- ・お散歩はあるのかなど、成長に合わせた見守り内容なのか。自分の都合で連れて行っているので、働く母としては、時間単位でメリハリがついたプログラムがあるとありがたい。

【ワークショップでの意見（グループ発表）】

- ・0か100しかない状況からするとあったほうがいいが、利用者が限られている。
- ・子どもにはどうなのか。子どもたちが慣れている、安心できる環境であるひろば、一時預かり、児童館などに働くスペースを設けたほうがいいのではないか。そういう場で、お母さん達が面倒をみあえるといいのでは。
- ・中小企業での活用を考えているとしたら、勤務管理や費用の問題がある。
- ・たくさんある選択肢のひとつとして、働いている人やそうでない人にも門戸をひらき、誰でも使えるようにするべき。
- ・利用料金や食事提供とその責任など問題は多いが、いいシステムなので、いかにうまくまわしていけるのかつめる必要がある。
- ・外出できないのはネックである。ひろばや一時預かりの場で実施するのが手っ取り早い。
- ・利用者の層は様々。自由に選択できる一つになればいい。駅近より家近。既存の施設利用、空き家の活用でコワーキングスペースの場を増やすという考えもある。
- ・子どもの見守りスペースでは子どもがかわいそう。仕事をしない日でも利用でき、仕事の日でも子どもと一緒にお昼を食べられるような場がよく、多機能おでかけひろばがいいのではないか。
- ・会社から補助があるか、高収入でないと使えないのではないかなど利用料が気になる。企業、当事者、子どもにとってのメリットがないと使いにくい
- ・子どもの育ちが保障できるかを第一に考えるべき。働くスペースよりも見守りスペースの方が大きいとよく、水遊び、砂遊びなどいろいろできる楽しいスペースに仕事ができるところが併設されているという方がよい。
- ・多様な働き方している人同士がつながれる場になるとよい。
- ・0から5歳まで同じスペースでみるのはあり得ない。
- ・利用者層が思い浮かばないが、おでかけひろばのプラスアルファとしてのワーキングスペースならありうるかもしれない。
- ・誰が子どもの面倒をみるのか。企業をリタイアした人や保育士資格を持っていて働いていない方などを活用し、社会とのつながりをつくる場になるならおもしろいかも。
- ・預かりの責任はとれるのか。つなぎ的な位置づけで質を確保できるのか。保育園ほど保育時間が長くない中、子どもが生活を身につけるには不十分。

(2) 多様な働き方についての企業の取組みについて

定量調査(「事業所アンケート」「従業員アンケート」)

基本属性

「医療福祉」が22.6%と最も多く、次いで「卸売業、小売業」が16.8%、「サービス業」が11.7%となっている。

図【事業所アンケート】事業所の業種(単一回答)

| n= | 建設業 | 製造業 | 情報通信業 | 運輸業、郵便業 | 卸売業、小売業 | 金融業、保険業 | 不動産業、物品賃貸業 | 学術研究、専門・技術サービス等 | 宿泊業、飲食サービス業 | 生活関連サービス業、娯楽業 | 教育、学習支援業 | 医療、福祉 | サービス業(他に分類されないもの) | その他 | 無回答 | 上段:度数 下段:% |
|----|------------|-----------|----------|----------|----------|------------|------------|-----------------|-------------|---------------|----------|------------|-------------------|------------|----------|---------------|
| | 274 100 | 27 9.9 | 8 2.9 | 5 1.8 | 8 2.9 | 46 16.8 | 11 4.0 | 6 2.2 | 5 1.8 | 13 4.7 | 8 2.9 | 31 11.3 | 62 22.6 | 32 11.7 | 5 1.8 | 7 2.6 |

回答があった事業所のうち、常用労働者数が10人から19人の事業所が33.2%と最も多く、次いで20人から29人の事業所が15.0%となっている。

図【事業所アンケート】事業所の常用労働者数(数値記入)

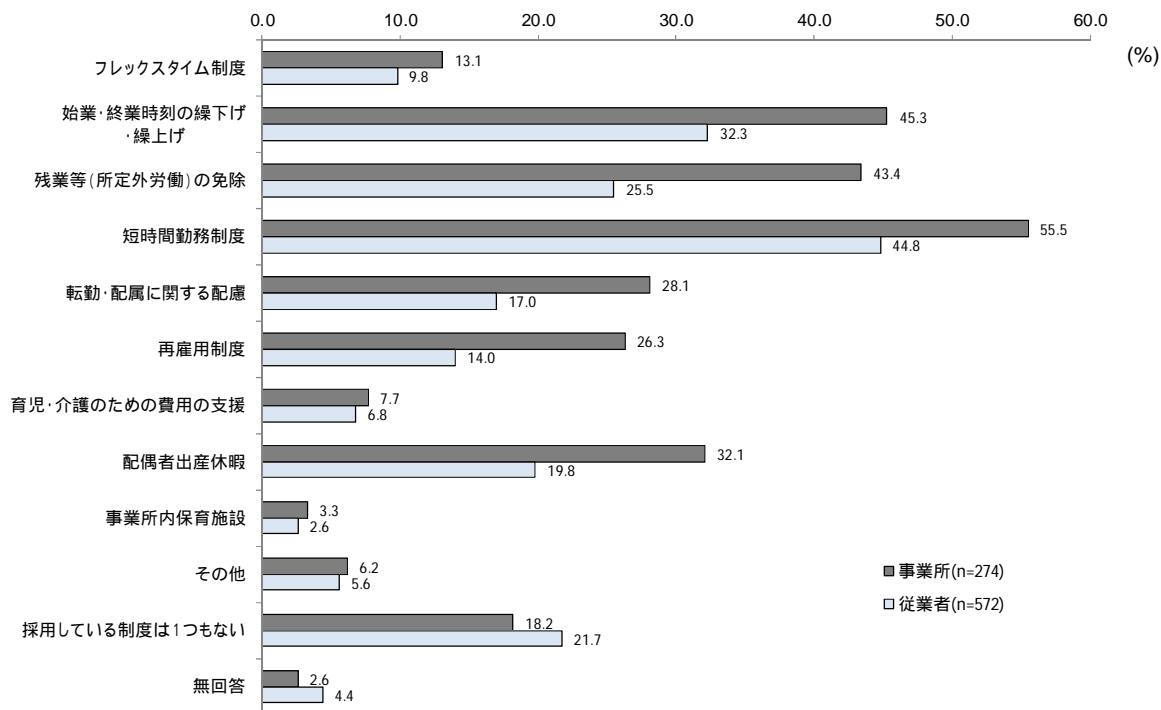
| 上段:度数 下段:%n= | 1-9人 | 10-19人 | 20-29人 | 30-49人 | 50-99人 | 100-299人 | 300人以上 | 不明 |
|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|----------|
| | 274 100 | 30 10.9 | 91 33.2 | 41 15.0 | 35 12.8 | 28 10.2 | 34 12.4 | 9 3.3 |

仕事と子育て・介護等の両立のために採用している制度（複数回答）

仕事と子育て・介護等の両立のために採用している制度については、「短時間勤務制度」が事業所 55.5%、従業者 44.8%と最も多く、次いで「始業・終業時刻の繰下げ・繰上げ」が事業所 45.3%、従業者 32.3%となっている。

一方、「採用している制度は1つもない」が事業所 18.2%、従業者 21.7%となっている。

図【事業所アンケート】[従業者アンケート]仕事と子育て・介護等の両立のための制度(複数回答)

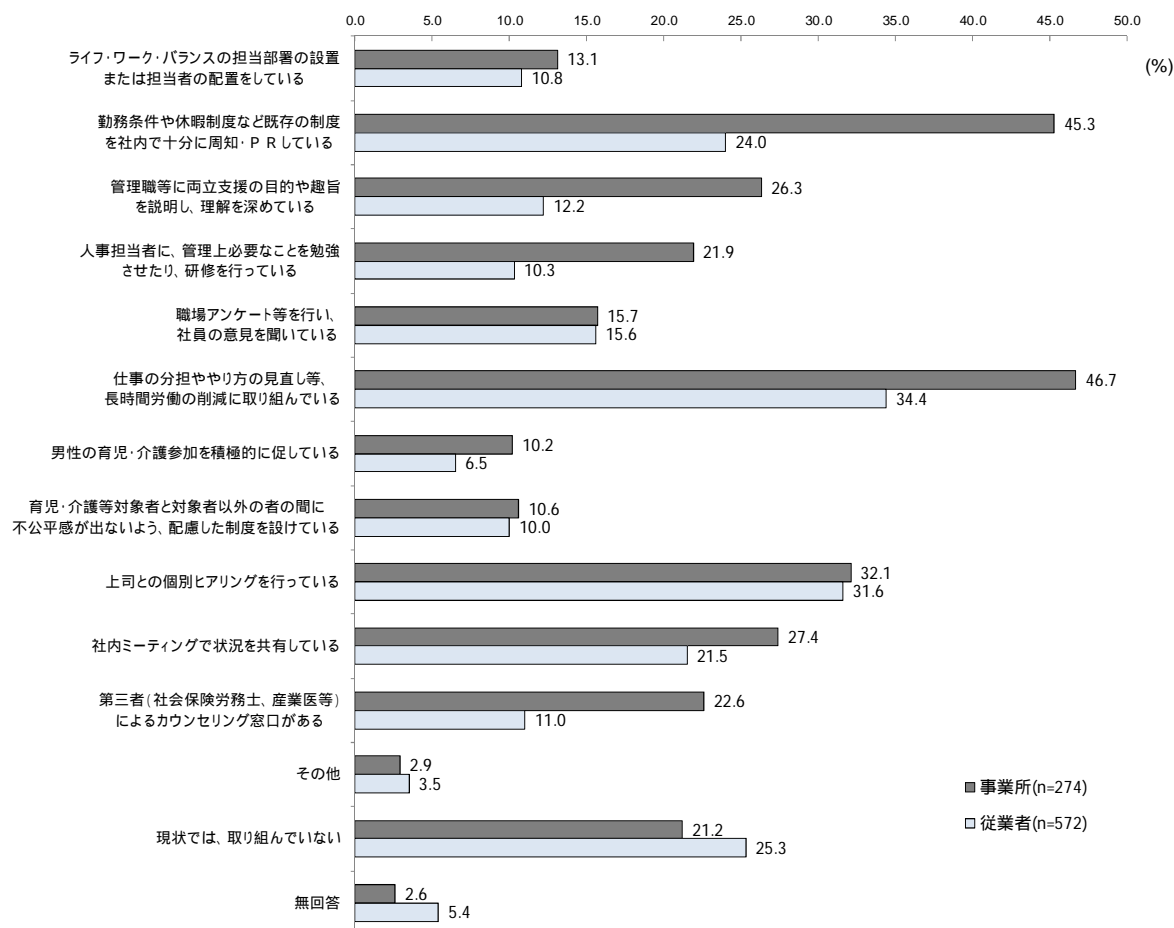


仕事と子育て・介護等の両立のために行っている取組み（複数回答）

仕事と子育て・介護等の両立のために行っている取組みについては、「仕事の分担ややり方の見直し等、長時間労働の削減に取り組んでいる」が事業所 46.7%、従業者 34.4%と最も多く、次いで事業所は「勤務条件や休暇制度など既存の制度を社内十分に周知・PRしている」が 45.3%、従業者は「上司との個別ヒアリングを行っている」が 31.6%となっている。

一方、「現状では、取り組んでいない」が事業所 21.2%、従業者 25.3%となっている。

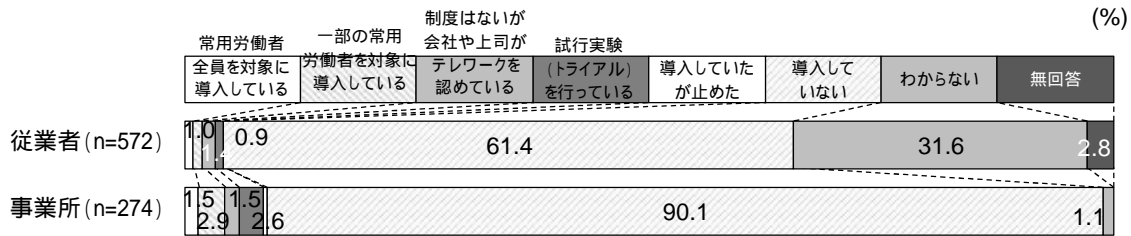
図【事業所アンケート】【従業者アンケート】仕事と子育て・介護等の両立のための取組み（複数回答）



テレワーク制度の導入状況

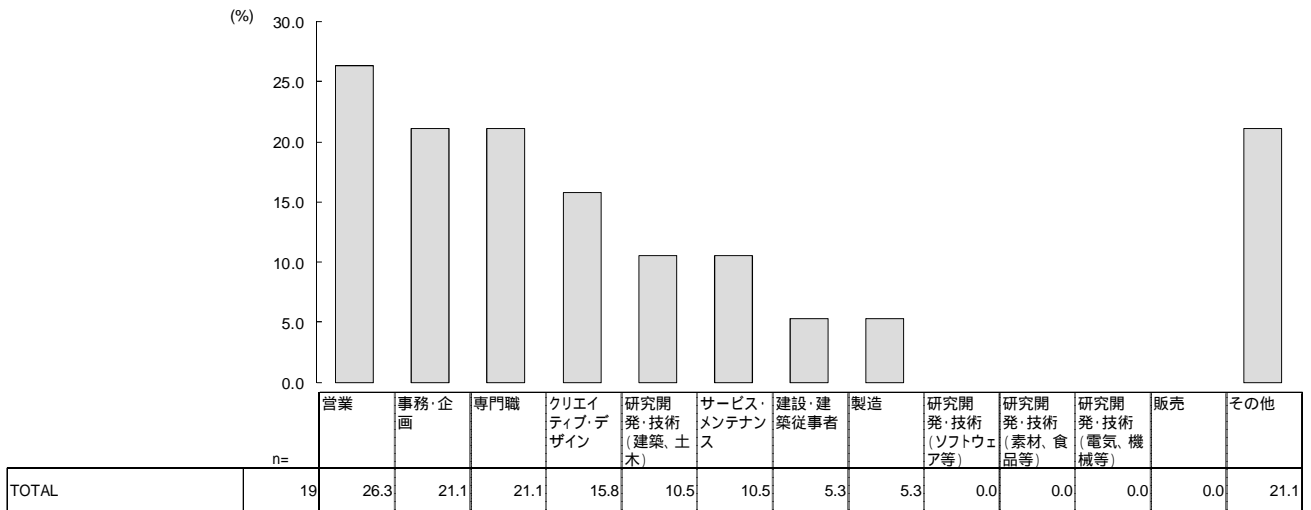
テレワーク制度の導入状況については、「導入していない」が従業員 61.4%、事業所 90.1%と最も多く、次いで従業員の「わからない」31.6%、事業所の「一部の常用労働者を対象に導入している」が2.9%となっている。

図【従業員アンケート】【事業所アンケート】テレワーク制度の導入状況(単一回答)



テレワーク制度を認めている職種については、「営業」が26.3%と最も多く、次いで「事務・企画」と「専門職」がそれぞれ21.1%となっている。(複数回答)

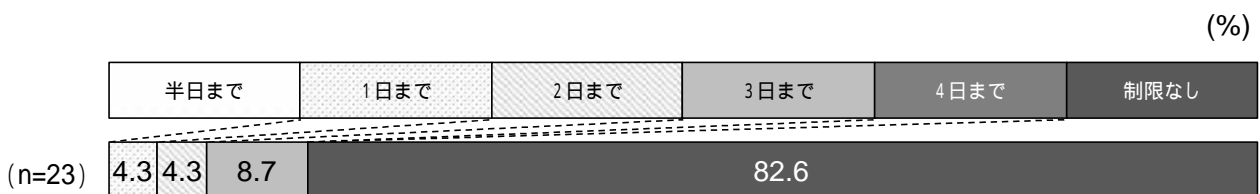
図【事業所アンケート】テレワーク制度を認めている職種(複数回答)



n が 30 未満は参考値

テレワーク制度を認めている1週当たりの日数については、「制限なし」が82.6%と最も多く、次いで「3日まで」が8.7%となっている。

図【事業所アンケート】テレワーク制度を認めている1週当たりの日数(単一回答)

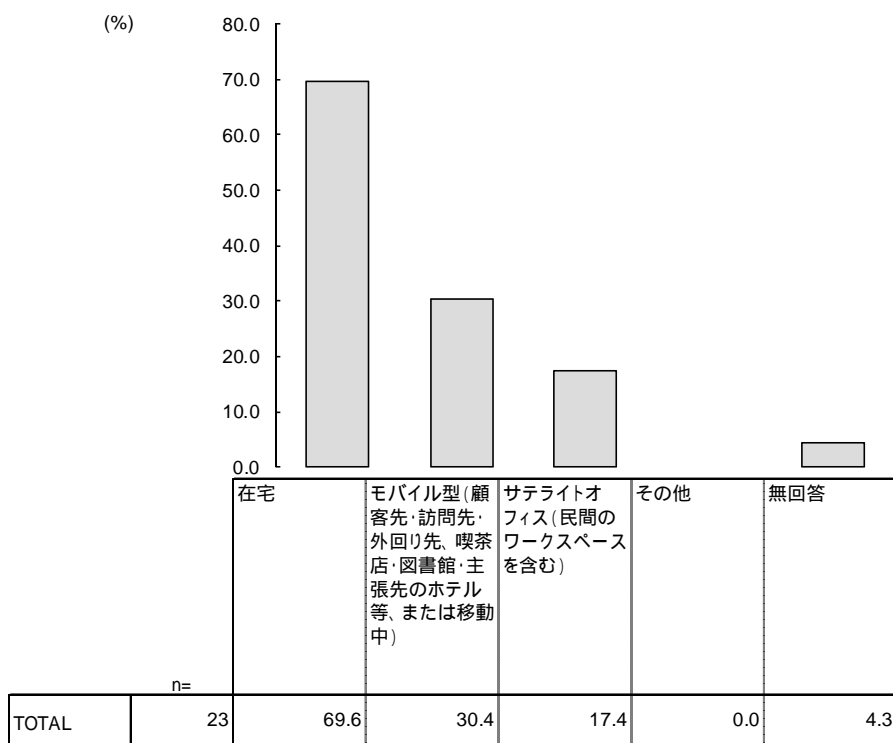


n が 30 未満は参考値

テレワーク制度として導入している取組みについては、「在宅」が69.6%と最も多く、次いで「モバイル型（顧客先・訪問先・外回り先、喫茶店・図書館・出張先のホテル等、または移動中）」が30.4%となっている。

「サテライトオフィス（民間のワークスペースを含む）」は17.4%となっている。

図【事業所アンケート】テレワーク制度として導入している取組み（複数回答）

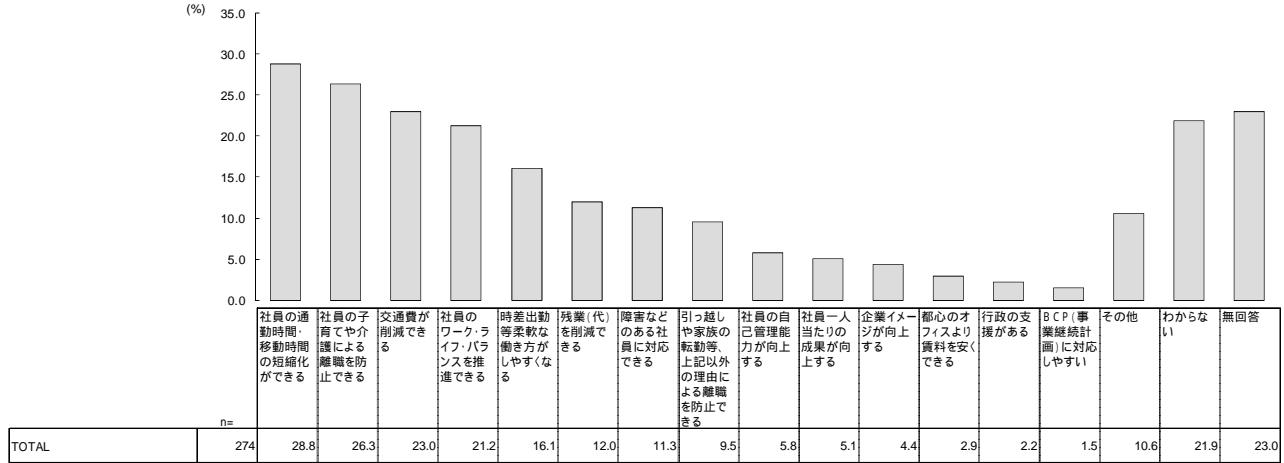


n が 30 未満は参考値

テレワーク制度導入による効果（複数回答）

テレワーク制度を導入した結果、どのような効果があったか・期待しているかについては、「社員の通勤時間・移動時間の短縮化ができる」が28.8%と最も多く、次いで「社員の子育てや介護による離職を防止できる」が26.3%、「交通費が削減できる」が23.0%となっている。

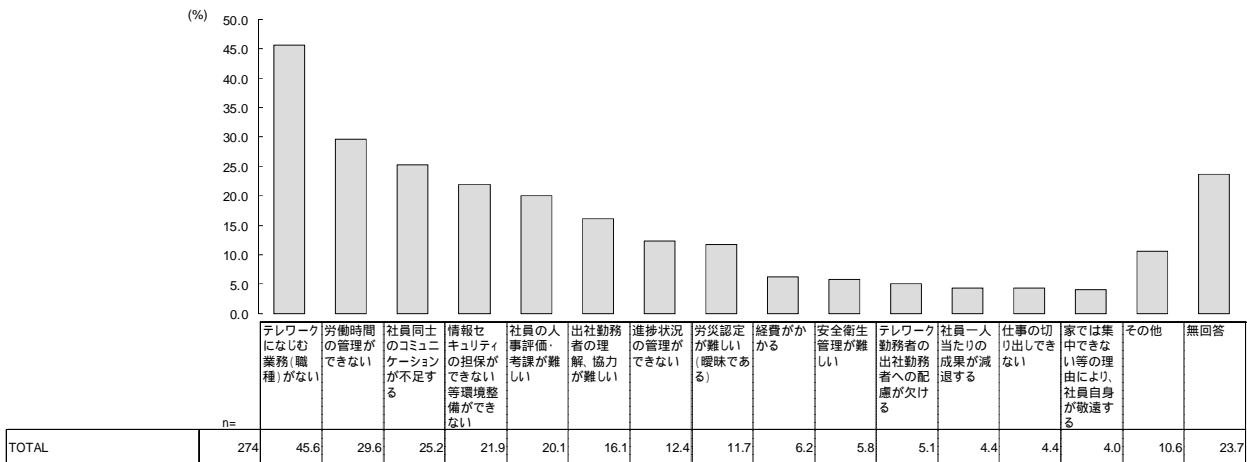
図【事業所アンケート】テレワーク制度導入による効果(複数回答)



テレワーク制度における課題（複数回答）

テレワーク制度の運営についてどのような課題があるかについては、「テレワークになじむ業務(職種)がない」が45.6%、次いで「労働時間の管理ができない」が29.6%、「社員同士のコミュニケーションが不足する」が25.2%となっている。

図【事業所アンケート】テレワーク制度における課題(複数回答)



事業所へのヒアリング調査結果

電気設備の設計、点検業務

- ・従業員数 71人（未就学児子育て中の社員3名）
- ・ヒアリング内容
 - () 子育て・介護と仕事の両立に向けた取り組み
男性社員からの育児休暇の取得相談を受け、会社として柔軟に対応するようにしている。
 - () テレワークについて
業務の約9割が現場での設備点検や設計業務がメインであるため、会社支給のパソコンを持参し現場業務に就く。自宅から直接現場へ向かい、日中は現場での作業をして終了後そのまま帰宅する日もある。
 - () テレワーク制度（在宅勤務等）を導入したいが難しい理由
 - ・顧客や設備の情報を扱うため、情報セキュリティ対策に課題がある。
 - ・上司等の判断を求める業務が多く、個人での完結が難しい業務が多い。
 - () テレワークを導入したい理由
 - ・子育て中のパート社員の意見で、育児をしながら短時間の仕事に就きたい意向がある。
 - ・事務職の職員が、育児や介護等で離職するのを防ぐことが期待できる。

自社製品の導入後の利用支援、製品マニュアル作成業務

- ・従業員数 25名（未就学児子育て中の社員5～6名）
- () テレワークについて
 - ・常用労働者全員を対象に導入している。在宅勤務や、別の事業所のワークスペースにおいてシステムにログインし業務を行える仕組み。
 - ・現在未就学児を子育て中の女性も利用している。
 - ・普段は子どもを保育所に預け事業所へ出勤しているが、主に子どもの行事や体調不良の時に合わせ、在宅勤務を申請する。
 - ・利用日数に制限はない。
 - ・在宅勤務で行う業務の切り出しとしては、製品導入の際のマニュアルや運用ルール書の作成業務等、資料作成業務が主な内容となっている。
- () 勤怠管理について
 - ・在宅勤務希望の際には、事前に在宅で行う業務計画の申請を行う。
 - ・当日の業務開始～終了連絡、専用システムへの入力管理を行う。
- () 課題
 - ・在宅で行う業務の進捗管理（報告・連絡・相談を徹底している。）
 - ・社員同士のコミュニケーションの不足（定期ミーティングを実施し仕事内容の共有を図る）
 - ・誰が、どこで業務を行っているかわからなくなる。

専修学校

- ・従業員数 42名（未就学児子育て中の社員5名）
- () 子育て・介護と仕事の両立に向けた取り組み
 - ・時間限定の限定正社員制度の導入をしている。これにより当該社員の給与は減るが、残業

がなく土日出勤も通常の半分でよくなるため、育児期間中も無理なく正社員で働くことができる。

- ・限定正社員制度の導入で、周りの社員の理解が進み、チームとして仕事の効率化を図るようになった。育休代替職員がすぐに見つからない事情もあるので理解が進んでいる。
- ・家族の介護のため、管理系の職員のテレワークを試行実施している。

() テレワークについて

- ・話し合いの上テレワークの日数を確定。
- ・勤怠の管理は、仕事の報告で確認する。
- ・持ち出しを許可しているパソコンに社内システムを導入している。
- ・今後、管理系以外の職員のテレワーク希望があった場合には、通信教育の採点やテキストの作成等の切り出しが必要となる。

() 配慮していること

- ・限定正社員もテレワークも、利用している社員と利用していない社員の両方のフォローが必要。

電気工事の現場監督、施行管理、工事

・従業員数 14名（未就学児子育て中の社員3名）

() 子育て・介護と仕事の両立に向けた取組み

- ・保育園の送迎がある社員の始業時刻を繰り下げている。
- ・子育て中のパート社員については、幼稚園行事等を優先できる。
- ・介護問題を抱える社員は今のところいない。

() テレワークについて

- ・事務処理、積算等在宅でできる仕事の場合、テレワークを認めている。
- ・現場代理人や施行管理、職人の方は、自宅から直接現場へ向かい、日中は現場での作業をして終了後そのまま帰宅することを許可している。
- ・いずれの職種でもパソコンを支給しているが、会社のネットワークの共有はせず情報漏えいがないようにしている。
- ・勤怠管理については、時間で管理をせず社員の能力次第で管理している。そのため特に事務処理は空いている時間に仕事に取り組みばよく、社員の能力次第で、例えば2時間かかる仕事を2時間以内で終わらせることができれば、社員は残った時間は自由に使えることになる。
- ・神奈川県内に支社があり、サテライトオフィスとして利用もできるが、サテライトオフィスとしての利用はあまり進んでいない。

() 効果

- ・これまでは現場代理人や施行管理等の職種は、現場と事務の両方を抱えていたが、事務の仕事を社内でアウトソーシングすることで負担をなくしていく取組みをしている。テレワークを認めている社員にも、製図の講習をして製図の仕事ができるように育成している。テレワークを認めている育成した社員の活躍が、そのほかの社員の負担軽減に繋がるので、社内で不平や不満はない。

衣料品の販売（通販含む）

・従業員数 48名（未就学児子育て中の社員0名）

（ ）子育て・介護と仕事の両立に向けた取組み

・「65歳まで安心して働ける会社づくり」を心掛けており、育児をしている社員の都合にあわせて柔軟に対応している。また、周りの理解・協力が得られているため働き続けることができる。

（ ）テレワークについて

・会社全体の事業継続に主眼をおいて、区内の別事業所とスカイプでやり取りしながら後輩の指導をする等、テレワークを試行実施している。
・通販の運営チームのアシスタント業務を、テレワークで実施している。
・情報の共有方法やタスク管理について、テレワークでの工夫を学びながら、今後、事業所以外でチームとしての業務の進め方を構築して、テレワークでのノウハウを蓄積している。

（ ）テレワークを導入したい理由

・今後、育児を行う社員が増えることを見据えて、事業所以外で同様の仕事を続けられる環境を整備していく予定。